



第45回「おかねの作文」コンクール

お金と幸せ

鳥取県・米子市立淀江中学校 2年 小谷 緑

一昨年ギリシャが経済破綻しました。私はこのニュースを聞いて、衝撃を受けました。経済破綻と聞くと難しく感じますが、簡単に言えば、国がたくさんの借金を抱えすぎ、破産した状態になることだそうです。家が破産することも大変なことなのに、国が破産するなど普通では考えられません。一体一つの国が破産するというのはどういうことなのでしょう。

今の日本や世界ではお金はなくてはならないものになっています。それどころか、必要以上にお金に執着していると言っても過言ではないと思います。お金さえあれば何でもできる社会になっているような気がします。私自身、今までお金さえあれば何でもできるという考えがあり、お小遣いの額のことでも親にぐちを言うことがありました。

しかし、お金がなくても国民が幸せに暮らす国があります。それはブータン王国です。1年ほど前にブータン王国の国王夫妻が来日されました。連日テレビで放映されていたので、私も何度か国王夫妻の様子を目にしました。何事にも真剣に穏やかに参加され、誰にも平等に対応される姿に私たち日本人は好感を持ちました。ブータン王国というと世界一幸せな国だと言われています。幸せな国というと、私たちはお金に不自由することがない生活という印象があります。

しかし実際は違います。ブータンは特別お金持ちというわけではなく、むしろあまり裕福とは言い難い国です。ではなぜブータンという国が世界一幸せな国と言われているのでしょうか。

国民が幸せを感じる時は、お金があっても何か物に囲まれている生活をしているとは言い切れません。お金があっても、周りに支えてくれる人や頼りになる友がいない生活は幸せな生活と言えるのでしょうか。決してそんな生活は幸せではありません。お金がなくても国民一人ひとりが互いに助け合い、支え合い、共に生きていく中で、充実感を味わえることこそが幸せにつながるのです。私はブータンはそういう国





なのではないかと思います。

例えば今の日本人に、
「10万円とお米10キロ、どちらが必要ですか。」

と質問すれば、ほとんどの人が「10万円」と答えると思います。

ですが、経済破綻したギリシャの人はどうでしょうか。お金の価値のなくなったことを知っているギリシャの国の人には、きっと「10キロの米」と答えるのではないのでしょうか。現在でも紛争が続いている国の人や飢餓に苦しんでいる国の人に聞いても同様の答えが返ってくると思います。

こうして考えてみると、私は一つの疑問にぶつかりました。本当にお金はなくてはならないものなのか、という疑問です。

最低限の生活が保障されていれば、人は気持ちの持ちようで幸福感が味わえると思います。お金があるために、多くの物をほしがり、お金さえあれば何でもできると思いがちです。ですが、ブータン王国のように、お金がなくても生きていけます。むしろ、お金に左右されないために、本当の幸せとは何かが分かります。貧しくても家族がいて、友達がいて、助け合える人がいて、自分のやりたいことができ、人のために何か力になれば、充実感は味わえるのではないのでしょうか。その充実感は幸福感につながっていきます。現在の生活に不満ばかり言って、あれもほしい、これもほしい、と言い続けていけばきりがありません。満足感からほど遠いと思います。こう考えると、幸せはお金ではない、その人の気持ちの持ちよう一つだという気がしてきます。

だれもお金に左右される生活が、借金を作っていくのかもしれない。今の日本も借金について大きな問題になっています。日本もギリシャのようにいつ経済破綻してもおかしくないような借金があるのだそうです。国民が不安を抱える理由は、やはりお金です。これから先さらに借金が重なっていき、日本が経済破綻したら、私たちが生活していくためのお金はどうすればいいのか、お金の価値がなくなり、自分たちが貯めた^たお金が生活に使えなくなったらどうなるのか、というような不安です。貧しくても、幸せに暮らせるならいい、という考え方にはあまり至りません。

今回、ギリシャの経済破綻やブータン王国の幸せについて考えることで、私は少し考え方を変えました。

私たちはお金さえあれば何でもできる、という考え方からそろそろ脱却しなければ





なりません。今こそ、私たちが生きていく上で本当の幸せは何かを、私たち自身が追求していく必要があります。私もお金第一の生活から本来の人間らしい生活を取り戻すために、お金と幸せについて考えていきたいと思います。

